

授業科目名	発声・滑舌・アクセントⅡ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	FMラジオ「おはラジ!」、「ビジネスウォッチングイン北大阪」の出演、TVでは「デイリーアドバンスコープ」「ぐるぐるコロンブス」「いかなあGO!」に出演。その他CMナレーションや講演会などの経験を活かした実習を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>自分自身の声の個性を使いこなし現場に応じられて求められる表現を発揮できる技術の習得          声での表現を楽しみ言葉の持つ力を豊かに表現することを目指します。          聞き手の心を動かし、個性を発揮できる言葉の使い手を目指す。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹式呼吸の完成を目指す。</li> <li>・音量、間、ピッチ、強弱などのコントロールが出来るようになる</li> <li>・自分で考え源まで求められる表現に対応できる技術の習得。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1年次の復習 / 授業の説明(早口言葉一覧、アクセント練習一覧の使用法) / 文章の音読 / 早口言葉一覧
【前期】 5～8回目	ニュース原稿 / アクセント練習一覧 苦手な言い回しの認識と改善 / ニュース原稿の音読と録音 / 方言
【前期】 9～12回目	歌詞を読む・体言止め / ラジオ体操の歌詞を使ったピッチコントロール / 天気予報の原稿の音読 / 数字の多い原稿
【前期】 13～16回目	日本語について 慣用句、四字熟語、カタカナ語 / 正しい日本語の使い方を学ぶ / 方言を活かす / 経済新聞を使った時事ネタ
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	間(ま) / 体幹トレーニング / 500文字程度の文章 / ピッチ
【後期】 24～27回目	◆強弱 / 800字程度の文章 / 声色 / スポーツのニュース原稿
【後期】 28～31回目	私心から離れる / 自分にファンレターを書く / 伝わる滑舌の完成 / 250字ほどの原稿初見読み 400字ほどの原稿初見読み 700字程度の原稿初見読み 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	読解力の強化 / 外郎売 / チェンジオベースや息継ぎ / 偉人の名言集を音読
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	普段から会話で使っている言葉でもプロの現場になるとアクセントや発声が変わるものが多い、そのチェック方法を知る事で焦らず現場に対して準備が出来ます。言葉を発することは繰り返し練習することで身についていきますので学んだことを普段から心がけて話すようにすると上達も早くなります。
使用教科書	

授業科目名	ナレーション実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	「ジモスポ〜京都〜」(J:COMチャンネル)、「OSAKA1番らぼー」「わざわざ言うTV」(TVO)、「谷口キヨコの旬なKANSAITレンド+」(eo光チャンネル)、「D-IMPACT」「BINBINソルト(釣りビジョン)」「EXILEスペシャル」「w-inds.SP」のナレーションを務める				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の基礎を更に感情、理論的に理解を深める。</li> <li>・あらゆるジャンル、媒体の限クオでも臨機応変に対応する術を学び理解すること</li> <li>・様々な原稿を用いて難易度を上げていきながらも個々の技量に合わせた指導を行う。原稿を2週にわたって使用し、予習と復習が出来る。</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナレーションの基礎理論を学び表現力の向上を目指す。</li> <li>・原稿の読み方のチェックポイントを正確に把握する</li> <li>・感情、速度、雰囲気など表現する際に必要な要素をしっかりコントロールする術を理解し実践できる</li> <li>・ナレーション表現の細部を精査することで完成度を高める意識が生まれる</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	レクリエーション(フリートーク) 個々の目標を言葉にする / 授業の進め方、年間スケジュールの説明 / 課題の確認1 / 使用原稿A
【前期】 5～8回目	課題の確認2 / 使用原稿B / 総合的な技術の向上1 / 使用原稿C ナレーションの基礎理論
【前期】 9～12回目	総合的な技術の向上 / 使用原稿C ナレーションの基礎理論の続き / 復習 個別に望む表現力を身につける / ボイスサンプル原稿の選考と説明
【前期】 13～16回目	ボイスサンプルBGMの選考 / ボイスサンプル原稿の練習 / ボイスサンプル原稿の練習3～4
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	前期の熟練度の確認 / 課題への取り組みと悪癖の改善 / 課題の改善1 / 原稿Eを使用
【後期】 24～27回目	課題の改善 原稿Eを復習 / 細部を精査しクオリティの向上を目指す / オーディション対策の朗読1 「朗読」を基礎から学ぶ / オーディション対策の朗読2 長文の朗読原稿を熟読
【後期】 28～31回目	オーディション対策の朗読3 原稿をブロックごとにわけ、完成度を上げていく / ブロックを組合せ全体像を掴み、表現の幅を広げる / オーディション対策の朗読4 感情表現を優先し、各基礎力(発声・滑舌)の安定化 / オーディション対策の朗読5 朗読の理解度と表現、発声、滑舌の完成度を上げる 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	オーディション対策の朗読6 オーディション対策として注意点 / オーディション対策としたナレーション強化1 / ナレーション基礎理論の再認識 / オーディション対策としたナレーション強化2
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	一般的な声優オーディションの課題では台詞以外にもナレーション台本を読む内容が多くなってきました。渡された台本の読解力や分析をしながら自己表現力が問われるナレーションは自分の持っている知識、経験から引き出す必要がある為、沢山の課題を取り込み成長していきましょう。
使用教科書	

授業科目名	演技基礎実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	株式会社TENPACHIで劇団天八の座長として多くの舞台出演、演出を手がける。また若手劇団員の育成も行っている。実務経験12年				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台演技の「演技術」の習得</li> <li>演技における身体育成から始まり、舞台での本番を重ね、演技者としての自覚を持つようになる。</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>演技術の柱となる「4W」、「目的」、「障害」、「葛藤」、「行動」の理解と活用を学ぶ。</li> <li>表現者としての身体育成及び、舞台本番を重ね演技者としての自覚と経験を得る。</li> <li>刀や銃を使った「殺陣」の習得</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	イントロダクション / CTに基づいた有酸素運動のコンビネーション(発声ジャンプ) / TGを用いたアイスブレイク / 身体と身体1
【前期】 5～8回目	サブテキスト1～4 (発声ジャンプ、CT、TGを繰り返し感情と身体の開放、サブテキスト台詞と感情との表現方法の理解)
【前期】 9～12回目	動きと感情1～4 (発声ジャンプ、CT、TGを繰り返し感情と身体の開放 身体を動かした演技の表現力の違いと効果を理解する)
【前期】 13～16回目	台本と演技1～4 (台本の配布を行い作品内容の読み解き)
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	上演前の練習1～4 (立ち稽古の反復 自主的な問題点の解決)
【後期】 24～27回目	上演前の練習5～8 (立ち稽古の反復 自主的な問題点の解決 殺陣の構成と動きの理解)
【後期】 28～31回目	上演前の練習9～12 (立ち稽古の反復 自主的な問題点の解決 殺陣の構成と動きの理解)※本番日を別日程で実施【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	台詞へのアプローチ1～4 (発声ジャンプ、CT、TGを繰り返し感情と身体の開放)
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	渡された台本、与えられた役柄をどのように表現していくかは自身の個性によるものだが、基礎がないと演技力のない表現になり、説得力を持たない。本番の経験も積み、周りの表現方法を取り込み、自分の個性を作っていきましょう。
使用教科書	

授業科目名	歌唱基礎実技Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2007年 阪神若手音楽祭グランプリ受賞。2010年 河島英五音楽賞にて最優秀賞獲得。</li> <li>・2008年 シングル全国発売。ハドソン系着うたサイト インディーズランキング2位獲得。</li> <li>・2009年 GOING KOBE 09 出演。2010年 サマーソニック 2010 in東京 出演。</li> <li>・2012年 ユニット活動休止後、ソロ活動開始。</li> </ul>				
<b>授業概要</b>					
J-POPの名曲を通して、歌唱の基礎からビブラートなどの高度なテクニックまで学びます。ボイトレ運動しており、より難易度の高い音域やテクニックの習得を目指します					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ndブリッジに対する処理方法の確立・ビブラート等の高度なフレー징の習得・様々なキーやリズムに対する対応力の習得。</li> <li>・1曲を通して2ndブリッジ付近の音域に対応することができる・細かな装飾・アーティキュレーションを表現することができる</li> <li>・譜面から情報を読み取ることができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1年時の復習(1stブリッジの確立) / 譜読み(調号、ダイアトニックスケール・コードの確認、歌詞記入) / 練習(ブレス・アーティキュレーション・ビブラート等の位置や質感) / テーマ確認、練習
【前期】 5～8回目	フルコーラス歌唱 / 次曲の予習 / 譜読み(調号、ダイアトニックスケール・コードの確認、歌詞記入) / 曲の仕込み
【前期】 9～12回目	譜読み(調号、ダイアトニックスケール・コードの確認、歌詞記入) / 曲の仕込み・装飾音の確認 / ブレス・アーティキュレーション・ビブラート等の位置や質感 / フルコーラス歌唱→未達成部を部分的に練習・反復
【前期】 13～16回目	仕上げ(各注意点を処理しフルコーラス歌唱することができる) / 次曲の予習・譜読み・曲の仕込み / 譜読み(調号、ダイアトニックス / 曲の仕込み
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	フルコーラス歌唱 / 練習・反復・仕上げ / 次曲の予習・譜読み / 曲の仕込み
【後期】 24～27回目	装飾音の確認、練習(ブレス・アーティキュレーション・ビブラート等の位置や質感) / テーマ確認、練習→必要であれば目的に合わせたヴォイストレーニングを実施 / フルコーラス歌唱 / 次曲の予習
【後期】 28～31回目	譜読み(調号、ダイアトニックスケール・コードの確認、歌詞記入) / 曲の仕込み・装飾音の確認、練習 / テーマ確認、練習 / フルコーラス歌唱→未達成部を部分的に練習・反復 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	〈洋楽&低音域のファルセット) / 譜読み(調号、ダイアトニックスケール・コードの確認、歌詞記入) / 曲の仕込み・装飾音の確認 / テーマ確認、練習 フルコーラス歌唱
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	2年次のヴォーカルテクニックでは、より難易度の高い楽曲に挑戦していきます。各曲毎にテーマを設けて選曲していますので、その部分を中心に、細かな装飾(ビブラート・フェイク・メリスマ等)やアーティキュレーション(pp、ff、<、>、アクセント、スタッカート、テヌート等)にも配慮した歌唱を目指しましょう。さらには、実践を通し1年次の各授業で培った基礎技術・知識を発展させていきます。そのためにはこの授業だけでなく、他の授業での総合的なスキルアップと日常不断の努力が不可欠です。
使用教科書	別紙譜面を配布

授業科目名	ダンス基礎実技Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ダンスの専門学校を卒業後、ダンススタジオ、avexアーティストアカデミーでのインストラクターを兼任。ダンスチームAtrandomとして「JAPAN DANCE DELIGHT Vol.20」Finalist、SDS CREW BATTLE優勝、STAR BOXX2013優勝経験も持つ。実務経験12年				
<b>授業概要</b>					
1年次に引き続きダンスの基礎をより深め、ジャンルはJAZZをベースに振付を学びます。姿勢や立ち居振る舞い、動きの切れを増し、イベント出演の経験もしていきます。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・振付を多く踊り、覚える力を身に付ける</li> <li>・踊りこみを行い、表現力を身に付ける</li> <li>・JAZZの技術を習得する</li> <li>・イベントに出るための準備方法を知る</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ウォーミングアップ。ダンスを踊るためのウォーミングアップを学ぶ / 筋トレ、基礎トレーニング、クロスフロアの一連の流れを知る / 1年次の基礎の動きを再度復習 / 1年次のクロスフロアの応用
【前期】 5～8回目	コンビネーション1～4 (8×4の振付を覚える。前回の復習及び続きを覚える。前回の復習及び続きを覚え、初回の振付を再構成し学ぶことができる。コンビネーション1～4を組み合わせて踊りこむ。新たな曲で振付を覚える)
【前期】 9～12回目	コンビネーション5～8 (前回の復習。新しい振付を覚える。前回の復習及び新しい振付を覚え、初回の振付の再構成を学ぶ。前回の振付の続きを学ぶ。前回までの復習と続きを学ぶ)
【前期】 13～16回目	コンビネーションまとめ (コンビネーション1～4のまとめ/コンビネーション5～8まとめ)テストに向けて 前期に覚えた振付をテストに向けて見せ方を考える / 前回の表現方法を研究する
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	前期にやってきた基礎の復習 クロスフロア / コンビネーション1～3 (8×6の振付を覚える / 前回の振りを踊りこみ自分のダンスにする) / 前回の振りにプラス8×2の振りを加えて覚える
【後期】 24～27回目	コンビネーション4～7 更に8×4の振りを加えて覚える / 前回の振りに8×4の振りを加えて踊りこむ / 5回目と6回目の振付を繰り返し踊る / 1～7までの振付をまとめる
【後期】 28～31回目	イベントリハ1～3 卒業制作に向けて振付を覚える 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	イベントリハ4～5 卒業制作の立ち位置、構成をつけたリハーサル
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	ジャズと聞くと女性のイメージが強かったですが近年では男性も女性も平均的に踊る人が増えています。バックダンサーの振付にも多く使われるジャンルでもあるので、この機会に2年間通してしっかり習得しましょう。
使用教科書	

授業科目名	デビュー対策実習		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの資料配布。連絡事項の伝達</li> <li>・声優、芸能事務所スタッフによるオーディション対策及び演技授業</li> <li>・演劇公演の小道具、大道具等の仕込。リハーサル</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界を知り、卒業後の自分を明確にイメージした上で進路を選びきる</li> <li>・オーディションの流れや段取りを知り、本番に備える</li> <li>・演技実習の上演に監視、演劇そのものを体感し、自由に与えられた様々な、課題、役割を全うしようとする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	イントロダクション / 声優の成り立ち / 職業内容の理解を声優の歴史から知る / テレビ放送の開始～最初の声優ブーム / 声優ブームの背景を知る
【前期】 9～16回目	代表的な声優アーティスト/テレビ、ラジオ、映画の声優業に知識 / 声優の仕事を知る / CD、DVD、舞台の声優業について知識を得る
【前期】 17～24回目	声優とメディア/インターネット、メディアについて知識を得る/ コミュニケーションツール、トークスキルの紹介を行う/イベント出演によりスキル強化をする
【前期】 25～32回目	コミュニケーションツール、トークスキル/オーディションとは(基礎)1書類/オーディション用台本を使用した模擬オーディションの実施 / 質疑応答、面談の練習
【前期】 33～38回目	■前期試験:前期総復習
【後期】 39～46回目	舞台稽古 読み合わせ / 定例公演の準備 / 台本の読み合わせ / 配役のオーディション
【後期】 47～54回目	キャストの読み合わせ/ 舞台上での動き決め / 通し稽古/ 衣装、小道具の準備 ※別日にて本番を設定
【後期】 55～62回目	進路活動1～4 個別面談指導 / プロフィール用紙作成/ 提出書類の作成と添削 / 手直しと提出
【後期】 63～70回目	模擬オーディションの実施 / 課題台本の練習 / ナレーション / 自己PR
【後期】 71～74回目	■後期試験:後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	この授業では業界のことを知るために様々な事務所の方に来てもらいセミナーをしてもらうこともあります。2年生は後期からオーディションを本格的に受けていくため前期の段階から卒業後の目標を決めきるために様々な準備をこの授業ですていきましょう!
使用教科書	

授業科目名	アフレコ応用実習		授業形態 / 必選	演習 選択(必)	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	9単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	「オー！マイキー」(ガム江・セクシー女役)、「歴史秘話ヒストリア」「踊るカマドウマの夜」他、CMや番組のナレーションを担当。ラジオドラマ「スペースドリフターズ」「ドラマの風」など多くの経験を持つ。実務経験10年				
<b>授業概要</b>					
1年生で学んだ知識、習得した技術を使って長い時間をかけ、2年間の集大成として長編アニメの作品「卒業制作」に取り組む。プロの声優、俳優を意識し、基礎から応用へとより高度な知識、技術を習得する。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎からより高度な知識、技術を習得する。</li> <li>繊細な感情や複雑な人間関係を理解し、自身の中に取り入れることによって演じる役の幅を広げ、様々な役柄を演じ分けられるようになることが出来る。</li> <li>長い時間をかけて1つの作品に取り組むことによってコミュニケーション能力や協調性、団結力を高め、業界に出たときの適応能力も養うことが出来る</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	作品決め 卒業制作の作品/配役決定&台本チェック / カット割表作成 / ガヤ等の分担
【前期】 9～16回目	リハーサル準備1～4/教室内でのリハーサル(マイク無し)/教室内でのリハーサル(マイク有)/リハーサルまとめ
【前期】 17～24回目	卒業制作練習1(タイミング)卒業制作本番の練習 / 卒業制作練習2(演技) / 卒業制作練習3(半通し) / 卒業制作練習4(通し) / 卒業制作練習5(通し)
【前期】 25～32回目	卒業制作本番前日練習1 / 卒業制作本番前日練習2 / 基礎練習/ 練習対策
【前期】 33～38回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 39～46回目	シリアスとコメディの切り替え1～4 / シリアスなシーン/コメディなシーン/両方の使い分け
【後期】 47～54回目	高度な感情表現1～4 / 悪役 / ニヒルな役 / 正義の味方
【後期】 55～62回目	高度な感情表現5/短編/ギャグアニメ1～3 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 63～70回目	ギャグアニメ4～6 / 自由課題
【後期】 71～74回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	アニメには無数のキャラクターがあり、それぞれの個性が活きるのは声優の役割が大きく意味を持ちます。自分はどのキャラが得意で苦手なのかを知る事も、演技にいかすことが出来ます。2年生は卒業制作に向けて作品作りを主に行います。悔いの無いように、1年生やお客さんに見れせられるようにしっかりと練習しましょう！
使用教科書	使用プリントを まとめた冊子を 1回目の授業で配布

授業科目名	舞台演技応用実習		授業形態 / 必選	演習 選択(必)	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	9単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	株式会社TENPACHIで劇団天八の座長として多くの舞台出演、演出を手がける。また若手劇団員の育成も行っている。実務経歴12年				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>映像演技の「演技術」の習得</li> <li>舞台演技と映像演技の違いを知り、演者としての幅を広げる。</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>カメラを意識した演技が出来るようになる。</li> <li>自身の出演する映像を見返すことで表現方法を変え、演出の幅を広げることが出来る。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	映像演技実習の授業説明 / 目標を定める/台本1を配布、読みあわせ/台本1のキャスティング
【前期】 9～16回目	カメラリハーサル / 映像で確認する / 収録1～2 / 1～2までの見直し
【前期】 17～24回目	収録4～5 / 4～5までの見直し / 台本2を配布、読みあわせ/ 台本2のキャスティング
【前期】 25～32回目	カメラリハーサル / 映像で確認する / 収録6～7 / 6～7までの見直し
【前期】 33～38回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 39～46回目	前期の課題点をチェック / 台本3を配布、読みあわせ / 台本3のキャスティング / カメラリハーサル
【後期】 47～54回目	映像で確認する / 収録8～9 / 8～9までの見直し / 収録10～11
【後期】 55～62回目	10～11までの見直し / 台本4を配布、読み合わせ / 収録12～13 / 12～13の見直し 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 63～70回目	①収録14～15 / 全体の修正 / 作品の完成を見る
【後期】 71～74回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	舞台と違い、映像ではマイクを通して演技をします。また連続した芝居ではなくシーンごとに細かく演技をすることになるため役作りの仕方や集中力の維持など同じ演技でも表現の仕方が変わってきます。短いドラマ台本を使って様々なバリエーションの演技を学んでいきましょう。
使用教科書	



授業科目名	ラジオパーソナリティー実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習 選択(必)	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	テレビ番組では出会いのまち西宮(サンテレビ)、大阪マラソン(eo光テレビ)リポーターとして ラジオでは中央競馬実況中継(ラジオNIKKEI)、CMでも大阪国際女子マラソン(Na)、SD共済(Na)、紀州南高梅(Na)等々 多くの番組でナレーター、MC、ラジオパーソナリティーを務める				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の発声を繰り返すことにより声の強化とストレッチを行う</li> <li>・正しい発声とトーク技術を習得しフリートークの幅を広げる</li> <li>・リポーター実習(撮影)を行い作品を作る</li> </ul>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい発声とトーク技術で進行でき、会場の雰囲気を出演できるMCになる。</li> <li>・視聴者、リスナーが行きたいと思ってもらえるリポーターを目指す。</li> <li>・一からラジオ番組を企画構成し、CUE SHEET作成、BGM選曲をして10分～15分の番組制作をする。</li> <li>・ミキサー(PA)の技術を習得する</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	外部イベントMC1 / オープニングトーク / 演奏終わり～次のアーティスト予告 / 本番(現場)に向けた資料作り
【前期】 5～8回目	本番(現場)を終えて反省点の改善 / フリートーク / キャラクターショー1～2
【前期】 9～12回目	ヒーローショーでのお約束とお願いのフリ / ショーの締め / エンディングトーク / リポーター実習1 学内リポート(学校紹介、行事のリポート)
【前期】 13～16回目	学内リポートの撮影 / リレー中継の受け方、振り方 / イベントのリポーターのシュミレーション / 起承転結を取り入れる
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	ラジオショッピング1「食べ物」の紹介 / 「アクセサリー」の紹介 / ラジオCM1 / 企業CM
【後期】 24～27回目	天気予報 / ラジオ番組収録 / CUE SHEETに起こしていく / 番組の企画構成を考える(CMや天気予報も入れる)
【後期】 28～31回目	BGMを選び/DJとミキサー(PA)に分かれて練習をする / スタジオにてラジオ番組の収録 / 選挙アナウンス(ウグイス)1 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	ウグイス、候補者、運転手の配役を決めてリハ / 回忌法要MC / 葬儀や法要の発声方法 / 故人のプロフィール紹介(仮の自分ヒストリーを作成)
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	MCもDJもリポーターもイベント進行の要となり、イベントそのものの雰囲気を作る重要な役割を担っています。 様々なシチュエーションに対応できるようになることで仕事の幅も広がり、可能性も広がります。
使用教科書	

授業科目名	歌唱応用実技Ⅱ		授業形態 / 必選	実習 選択(必)	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年木村充揮を父に持つ木村俊章とロックバンド「BAHARANA」結成。</li> <li>・ジョニー吉長、内田勤太郎、寺岡呼人等大御所ミュージシャン・バンドと共演を重ねる。</li> <li>・2012年6月バンド活動休止後は、ソロアーティストとして活動中。</li> </ul>				
授業概要					
<p>ヴォイストレーニングで培ったテクニックの応用 (腹式呼吸による発声の支え。ミドルヴォイスによる豊かな共鳴。ビブラートによるフレーズの装飾等。) セルフプロデュース力の向上 (自己像の客観視。楽曲を分析、解釈し表現する力。目標とするスタイル、狙うターゲットはどういったものか。)</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存曲から自由に選曲・歌詞実技し、個々の歌唱力・客観性・楽曲に対する考察力を高める。</li> <li>・魅力的な歌唱表現 (ダイナミクスでドラマ性を演出できているか。言葉の発音とアクセントの重要性。細かいフレージングに抑揚をつける。等)</li> <li>・1年次に培った基礎を下地に、更に実力を向上させる。個々のオリジナリティと様々な現場での対応力を磨く。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	曲の仕込み、分析 / 5月のコンテストを目標とした練習 / 基礎の確立/色づけ(パートによつての声色、発声の正解を模索)
【前期】 5～8回目	暗譜、客観視(フルコーラス歌唱で練習)/ステージでのパフォーマンス/歌い込み(総合的復習練習と修正 / 曲の仕込み、分析)
【前期】 9～12回目	基礎の確立(細かいピッチ、リズムの改善) / ツーコーラス / 色づけ(パートによつての声色、発声の正解を模索 / 暗譜、客観視(スタミナ、持続力の強化を図る)
【前期】 13～16回目	歌い込み(総合的復習練習と修正) / 7月コンテスト曲の準備 / 基礎の確立(細かいピッチ、リズムの改善。ダイナミクスをつけてみる/ 暗譜、客観視(フルコーラス歌唱で練習)
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	基礎の確立(細かいピッチ) / ツーコーラス / 10月のコンテストを目標とした練習 / 暗譜、客観視
【後期】 24～27回目	歌い込み(総合的復習練習と修正) / 12月のコンテスト曲の準備、練習 / 曲の仕込み、分析 / 基礎の確立(ダイナミクスをつけてみる)
【後期】 28～31回目	歌い込み(総合的復習練習と修正。) / 曲の仕込み、分析(プレスポイント、ピッチ、リズム等基礎の確認) / 2月のコンテストを目標とした練習1～2 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	基礎の確立(リズムの改善) / ダイナミクス / ツーコーラス / 色づけ / 復習
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	皆さんが大好きな歌、上手く歌いたい楽曲を練習する授業です。学内コンテストや外部オーディションへ向けて、1年次に培った歌唱力を更に高めていきましょう。自分の声質や声域を理解し、目指すアーティスト像へ近づくため自主的に選曲することが大切です。センスを磨いて自信を持って歌えるようになりましょう。
使用教科書	

授業科目名	ダンス応用実技Ⅱ		授業形態 / 必選	実習 選択(必)	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ダンスの専門学校を卒業後、ダンススタジオ、avexアーティストアカデミーでのインストラクターを兼任。ダンスチームAtrandomとして「JAPAN DANCE DELIGHT Vol.20」Finalist、SDS CREW BATTLE優勝、STAR BOXX2013優勝経験も持つ。実務経験12年				
授業概要					
ダンスの基本技術となるリズム感を養う 音を良く聞き、音楽に合わせてダンスが踊れるようになるために最新のHIP HOPの知識や表現力を身に付ける					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの基礎技術が身につく</li> <li>・基礎体力が身につく</li> <li>・HIP HOPダンスについて詳しく知る事が出来る</li> <li>・様々なシーンに通用するパフォーマンス力を習得する</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	身体の使い方と基本技術の習得 / ストレッチ、筋トレでベース作り / アイソレーション(身体の部位を単独で動かす基本技術) / リズムトレーニング(ダウン、アップのリズムに加え簡単なステップを取り入れる)
【前期】 5～8回目	音楽に合わせて表現する / 振付1の習得(アイソレーション、リズムトレーニングの応用も含む) / 振付2の習得(アイソレーション、リズムトレーニングの応用も含む) / 振付3の習得(アイソレーション、リズムトレーニングの応用も含む)
【前期】 9～12回目	振付3の習得(ステップ系を中心としたダンスの技術) / 振付4の習得(ステップ系を中心としたダンスの技術) / 振付5の習得(フロアを含む技術) / 振付6の習得(フロアを含む技術)
【前期】 13～16回目	振付7の習得(8×4の振付を学ぶ) / 振付8の習得(引き続き8×4の振付を学ぶ) / 振付9の習得(続きの振付を学ぶ) / 振付10の習得(更に新しい振付を学ぶ)
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	基礎の応用1 / アイソレーション(パーツごとに身体を動かす) / リズムトレーニング(ダウンやアップに加え、ノリやステップの応用) / 振付1～4
【後期】 24～27回目	基礎の応用2 / アイソレーション(パーツごとに身体を動かす) / リズムトレーニング(ダウンやアップに加え、ノリやステップの応用) / 振付5～8
【後期】 28～31回目	基礎の応用3 / アイソレーション(パーツごとに身体を動かす) / リズムトレーニング(ダウンやアップに加え、ノリやステップの応用) / 振付9～12 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	振付6までを使って自分たちで構成作り。発表 / 基礎の応用 / アイソレーション(パーツごとに身体を動かす) / リズムトレーニング(ダウンやアップに加え、ノリやステップの応用) / 振付11
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	オーソドックスなジャンルのHIP HOPですが様々な種類があり、年代ごとによって変わって行くHIP HOPの歴史を知る事もダンスを好きになるキッカケになります。2年間通してHIP HOPを学び、ダンスの基礎技術と楽しさ、表現力など沢山のことを学んで下さい。
使用教科書	

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択(必)
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2003年に「twenty4-7」を結成し、2007年にavexからメジャーデビュー。</li> <li>・シングル・アルバム通算15枚をリリース。</li> <li>・2012年9年間の活動を経て「twenty4-7」解散後、現在はソロとして活動中。</li> </ul>				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本フォームである、喉頭の位置・姿勢・顎の位置・腹式呼吸の理解</li> <li>・各母音の共鳴を得るための口腔内のフォームである、顎の開き・舌の位置(高さ・前後)、咽頭腔の理解</li> <li>・声区(チェストヴォイス・ミドルヴォイス・ヘッドヴォイス)の理解</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・声帯閉鎖による声区融合の達成</li> <li>・ヴィブラートの仕組みの理解と技術の習得</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ヴォイストレーニング導入1/スタビライゼーション(体幹トレーニング) / 基本フォーム / 姿勢・顎・腹式呼吸
【前期】 5～8回目	ヴォイストレーニング導入2/ チェストヴォイスの確立 / ヘッドヴォイスの発見 / ファルセットとヘッドヴォイスの相違の理解
【前期】 9～12回目	ヘッドヴォイスの発見 / ファルセットとヘッドヴォイスの相違の理解 / チェストヴォイスとヘッドヴォイスでの声区移動1～2
【前期】 13～16回目	・ヘッドヴォイスの開発 / ヘッドヴォイスの強化からミドルヴォイスの発見 / ヴィブラートの仕組みとトレーニング / 声区融合と各母音の相違の理解
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	ヴィブラート練習 / 各母音の練習(音程の変化と波のスピードアップ) / ・全ての母音で1stブリッジ&2ブリッジを滑らかにつなげる / 課題曲を使用した母音トレーニング
【後期】 24～27回目	様々な子音・母音で1stブリッジ&2ブリッジを滑らかにつなげる1～2 / 課題曲を使用した母音トレーニング / ヴィブラート練習
【後期】 28～31回目	各自克服すべき課題(苦手な子音・母音及び、苦手な音域)を明確にする1～3 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	持久力(長時間の声帯閉鎖・喉頭の正しい位置の持続)を獲得していく1～2
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	この授業で得られた知識があれば卒業後も引き続きトレーニングができ、またプロヴォーカリストとしてキャリアを積む学生は自身の声を正しくキープできるようになる。そして中にはヴォイストレーナー(指導者)の仕事に就く卒業生もいるでしょう。2003年頃から日本にようやく広まったミドルヴォイス・ヘッドヴォイス等といった「正しい声帯の使い方」はまだまだ15年ほどの短い歴史しかありませんが、皆さんを通じて、さらに多くのヴォーカリストに浸透していき、また新しい世代へと引き継いでいって欲しいと願っています。
使用教科書	別紙譜面を配布。

授業科目名	ヘアメイク実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習 選択(必)	
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	メイクセラピー「shin.shin」の経営をしてい傍ら、「一般社団法人日本アピアランスセラピー協会」の代表理事を勤める。甲南大学でも講演を行っている。営業や就職に向けたメイク講座の実施経験を多く持つ。実務経験17年。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションの歴史を知り、着こなしや、見栄えに気を使えるようになる</li> <li>・自己プロデュース力を身につけ、オーディションに役立てる。</li> </ul>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションの知識、歴史の習得</li> <li>・メイクの基礎知識と技術の習得</li> <li>・必要な場面に合わせたファッションとメイクを自分で考えて出来るようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	50年代の歴史を知る / 海外のファッションと日本のファッションの共通性を学ぶ / ネッカチーフ、パナマ帽など、海外で流行したキーワードを知る / ロカビリー、六本木族、髪型を学ぶ
【前期】 5～8回目	60年代の歴史を知る / 海外のファッションと日本のファッションの共通性を学ぶ / ヒッピー、モッズ、アイビールックなど海外で流行したキーワードを知る / みゆき族、サイケ、髪型を学ぶ
【前期】 9～12回目	1970年代のバリエーション / 海外～日本のファッションの共通性を学ぶ / 70年代の海外と日本のアイテム(キーワード) / バブル期の日本の流行を知る /
【前期】 13～16回目	80年代の歴史を知る / 80年代を中心としたファッションの移り変わりを知る / たけのこ族、DCブランド、シブカジなどを流行りを知る / 80年代を代表するデザイナーとブランドを学ぶ
【前期】 17～19回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	メイクを学ぶ / 50年代、60年代のメイクとヘアアレンジを学ぶ / 70年代、80年代のメイクとヘアアレンジを学ぶ / 映像で見る前期で学んだファッションを含む映像を見て、着こなしを学ぶ
【後期】 24～27回目	90年代の歴史 / 日本カルチャーの変貌 / 90年代のブランド / ブランドの名称と特徴を知る
【後期】 28～31回目	ストリートファッション / 各ストリートファッションの特徴を学ぶ / 絵に描いてまとめる / ハイブランドの特徴を学ぶ 【冬季特別セミナー】成果発表会 総復習等
【後期】 32～35回目	ファッションの種類 / きれいめから黒文字系ギャル、山ガールなどを学ぶ / 絵に描いてまとめる / 1990年代～2000年代のヘアメイク
【後期】 36～37回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	流行ごとによって変わっていくファッションやメイクの歴史を知っていきます。実際にそれらを自身のファッションに取り入れて写真を撮りましょう。またその写真を元にMYノートを作成し、自分をモデルとした冊子を作っていきます。人前に出る、社会人として働く際に必要な知識と技術をクラスメイトと一緒に学んでいきます。ファッションやメイクを学ぶことで人前に出る勇気も出てきます。意識を変えていきましょう。
使用教科書	

授業科目名	ワードエクセル講座		授業形態 / 必選	講義 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	実務経験17年。 大学にて研究員として学生に対するICT、CADの指導をはじめます。 特許事務所のパテントエンジニアを経た後、本格的に現在のICT、CAD教育業務に携わる。 その他、企業、教育施設において情報セキュリティの指導にも携わる。				
<b>授業概要</b>					
Word・Exceの使用方法を学び、効率の良いビジネス文書や書類の作成が出来る事を目指します。 また、PCに慣れていない学生が多くいる為、PCでの作業が利便性に長けている事を実感させ、苦手意識を無くしていきます。					
<b>到達目標</b>					
現在、ほとんどの仕事で必要となるWord・Excelの基本的な使用方法を習得することができます。 また、PCの基本的な操作方法も身につけることができるため、卒業後のビジネスシーンで役立てることができます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Word ① 文字入力の基本/漢字変換の方法/MSIME(日本語入力システム)の機能の理解/ビジネス文書の基本的な形式の理解
【前期】 5～8回目	Word ② ビジネス文書の基本的な形式の理解/書式設定の方法/段落の概念の理解/作成中の文書の保存
【前期】 9～12回目	Word ③ ビジネス文書を完成/書式の印刷/段組の設定/タブとリーダーの設定
【前期】 13～16回目	Word ④ 表の挿入/表の編集/画像の挿入/画像の編集/図形を描くことができる/テキストボックスの挿入
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	Excel ① Excelの構成の理解/データの入力手順/入力データの編集/演算記号や数式の入力
【後期】 24～27回目	Excel ② 相対参照と絶対参照の理解/罫線を使った表の作成/表示形式等の書式設定
【後期】 28～31回目	Excel ③ グラフの作成と書式設定/よく使われる関数(RANK.EQ・IF・TODAY・NOW・ROUND・VLOOKUP・COUNTIF・SUMIFなど)
【後期】 32～35回目	Excel ④ データベースの理解/並べ替え・抽出・自動集計・テーブルなどの作成/便利な機能の活用
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	PCの基礎知識から学んでいきますので、PCに触れたことがないという方も安心してください。 しっかり基礎からサポートし、PCを使えるようにしていきます。 また、Word・Excelはビジネスシーンにおいて必須のスキルとなりますので、一緒に楽しく勉強していきましょう
使用教科書	Word・Excelのパソコンソフト / 授業内容のオリジナル説明プリントを各授業ごとに配布

授業科目名	デザイン講座		授業形態 / 必選	講義 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	実務経験:34年 主に電器・通信関係を中心とした販売促進ツール(ポスター、店頭展示パネル、POP、チラシ、パンフレット、リーフレット)を作成。 また、パッケージ・広告・書籍のレイアウト・装丁などのほか、CDジャケット・ポスター・フライヤー・グッズ等の音楽関係の制作物も数多く手掛けるなど、幅広いデザインワークを展開している。				
<b>授業概要</b>					
デザイン・印刷など主にDTP(Desktop Publishing)のためのグラフィックコンテンツの作成技術を学んでいきます。 前期は、DTP業界の「事実上の標準ツール」となっているAdobe イラストレーターの基本的な操作方法の修得を目標に進行し、 後期は、フォトタッチアプリケーションのAdobe フォトショップの操作方法も交えて、実際の制作物を例にした課題を作成していきます。					
<b>到達目標</b>					
・イラストレーター、フォトショップを活用し、デザインの基礎的な知識と技術を習得できます。 ・デザインによる効果的な表現の伝達ができるようになるとともに、実務的な印刷用データの作成ができるようになります。 ・自身の音楽活動の中で必要となるフライヤーやCDジャケットなどのデザインを自身で制作できるようになります					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	イラストレーター ① アプリケーションの概略の理解/環境設定/塗りと線/各属性の設定/オブジェクトの描画/
【前期】 5～8回目	イラストレーター ② 基本的な編集操作/オブジェクトの複製/パスの基本的な描画/パスの編集/カラー設定
【前期】 9～12回目	イラストレーター ③ レイヤーの使用による編集/ツール・メニューを使ったパスの変形・編集/オブジェクトの組み合わせによる編集
【前期】 13～16回目	イラストレーター ④ オリジナルのキャラクターの制作/文字関連の機能/文字の編集機能を使ったレイアウトとデザイン
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	フォトショップ フォトショップによる画像編集/ビットマップとベクターの違いを理解/RGBとCMYKの違いを理解/ファイル形式の変更
【後期】 24～27回目	練習課題「ランチメニュー」の制作 イラストレーターとフォトショップを使って指示通りの形式データの作成/効果的に情報伝達のできるデザインの実践
【後期】 28～31回目	練習課題「ライナーノーツ」の制作 文字の編集/指示通りの形式の印刷用原稿データの完成/効果的に情報伝達のできるデザインの実践
【後期】 32～35回目	練習課題「CDジャケット」の制作 写真・画像・文字を使った総合的なデザインと印刷用データの完成
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	皆さんが町中で見えるフライヤー・ポスター・Tシャツなどのデザイン物はイラストレーターやフォトショップといったソフトウェアを使ってデザインされています。 これらのソフトウェアの使用方法和デザインの基本を学んで、自分だけのデザインを作れるようマスターしましょう。
使用教科書	Illustrator・Photoshopのソフトウェア / 授業内容のオリジナル説明プリントを各授業ごとに配布

授業科目名	アフレコ録音実習		授業形態 / 必選	講義 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	「オー！マイキー」(ガム江・セクシー女役)、「歴史秘話ヒストリア」「踊るカマドウマの夜」他、CMや番組のナレーションを担当。ラジオドラマ「スペースドリフターズ」「ドラマの風」など多くの経験を持つ。実務経験10年				
<b>授業概要</b>					
<p>外画或いは実写映像へのアフレコ技術を学ぶ。アニメーションアフレコとの違いを学び、人間が人間を演じる技術を習得する。日本語に置き換えたときに、言語や字幕で作品を観て受けた感動と同じものをどうやって与えられるのか。常に問い続ける姿勢を身に付ける。時代背景や登場人物を深く理解することの大切さを学び、自己の演技に反映させる技術を習得する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外画とアニメーションの違いを理解し、表現方法を変えることができる。</li> <li>・言語や字幕で作品を観て得られる感動と同じものを吹替版でも与えられるよう、時代背景や登場人物の理解を進める力を身に付け、映像内の役者が作り上げた役にあった演技ができる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	オリエンテーション / 自己紹介、自己アピール / 自己の目標の設定 / 授業説明
【前期】 5～8回目	シナリオ第一作目 / ストレッチ・発声・滑舌 / 役決め / 本読み
【前期】 9～12回目	五十音(四行を一息) / 立って動きをつけた本読み / 映像を見ながら本読み
【前期】 13～16回目	役の研究・追及 / 映像に合わせてアフレコ / オーディション対策 一人芝居 / レコーディング
【前期】 17～19回目	■前期試験: 前期総復習
【後期】 20～23回目	シナリオ第二作目 / 役決め・本読み・練習 / 動きをつけて本読み・映像確認 / 役の研究・追及・映像に合わせてアフレコ
【後期】 24～27回目	レコーディング / シナリオ第三作目 / 役決め・本読み・練習 / 動きをつけて本読み・映像確認 / 映像確認・動きを覚える
【後期】 28～31回目	役の研究・追及・映像に合わせてアフレコ / レコーディング / シナリオ第四作目 / 役決め・本読み・練習 / 動きをつけて本読み・映像確認
【後期】 32～35回目	映像確認・動きを覚える / レコーディング / 即興劇(エチュード)
【後期】 36～37回目	■後期試験: 後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	普段から映画を観るときは字幕だけでなく吹き替えで観ることで役者と声優の表現の違いなどを知る事が出来ます。またレコーディングをすることで客観的に自分の芝居を見直すことが出来るため、短時間での成長を目指し、色々研究して行きましょう。
使用教科書	



授業科目名	ダンスバリエーション実習		授業形態 / 必選	講義 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ダンスの専門学校を卒業後、ダンススタジオ、avexアーティストアカデミーでのインストラクターを兼任。ダンスチームAtrandomとして「JAPAN DANCE DELIGHT Vol.20」Finalist、SDS CREW BATTLE優勝、STAR BOXX2013優勝経験も持つ。実務経験12年				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音を聴く事によりリズムに合わせて身体を動かすことを学ぶ</li> <li>・ダンスの理解を深める</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なステップが踊れるようになる</li> <li>・ダンスの用語を知る事が出来る</li> <li>・ダウンとアップの違いを理解してリズムを体現できるようになる</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	自分の身体の状態を知る / ダンスの基礎知識 / カウントの取り方 / ダウンとアップ
【前期】 5～8回目	リズムとステップをあわせる / ステップをつなげる / ステップで移動 / 景色を変える(鏡無し)
【前期】 9～12回目	振付に挑戦する / 構成に挑戦する / 作品として踊る / レパートリーを増す
【前期】 13～16回目	バランスに意識を向ける / 復習と変化 / テスト対策1～2
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期総復習
【後期】 20～23回目	アイソレーションの意識 / ステップ1(サイドステップ、クロスステップ) / ステップ1をダウンとアップでリズムを取る / ステップ2(ボックスステップ)を学ぶ
【後期】 24～27回目	ステップ1, 2を組み合わせる / ステップ1, 2で移動 / アイソレーション、ステップ1, 2をベースにした振付 / 応用1
【後期】 28～31回目	周りのダンサーへの意識 / 振付、構成をつなげて踊りきる / ステップ3(ポップコーン) / 稼働範囲を広げる
【後期】 32～35回目	手の動かし方、体重のかけ方を学ぶ / ステップ1～3をつなげて振付 / 前回の構成をつける / 発表会
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	ダンスは様々な振付を踊りこむことで自分のバリエーションとして使うことが出来るため、覚えた振付を沢山踊りこみ、自分のダンスにしてください。見たもの、聞いたものを取り入れるには身体を使うことが一番近道です。一つ一つの動きを丁寧に覚えることでより深みのあるダンスの振付を学ぶことが出来ます。
使用教科書	

授業科目名	作詞作曲講座		授業形態 / 必選	講義	選択
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	<b>■声優芸能科</b> 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	・サポートキーボードとして、田原俊彦、郷ひろみ、荻野目洋子、浅香唯等々のツアーに参加。 ・楽曲提供、CF音楽、テレビアニメ、ゲーム等の主題歌、BGM制作。				
<b>授業概要</b>					
課題曲の制作を通して、音楽力を養ってゆく授業です。 音楽活動におけるオリジナリティーや音楽性の獲得は、作詞作曲にあると言っても過言ではありません。 作詞作曲を通して、自身の表現力を高めオリジナリティーの獲得を目指します。					
<b>到達目標</b>					
・作詞作曲の制作を通して、コードやメロディーに対する感受性を育てることができます。 ・コード、スケール、転調などの知識を身に付けることができるため、楽曲制作に大きな幅を得ることができます。 ・卒業後やデビュー後にも活用することができる知識と表現力を身に付けることができます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題制作①「Cメジャースケール」を使用して、作詞テーマ「風景」でオリジナル楽曲の制作 作詞のポイントのチェック/メロディーの起点についての理解/Cメジャースケールのヴォイシング/完成楽曲の録音
【前期】 5～8回目	課題制作②「Cメジャースケール」を使用して、作詞テーマ「片思い」でオリジナル楽曲の制作 作詞のポイントのチェック/メロディーの起点についての理解/Cメジャースケールのヴォイシング/完成楽曲の録音
【前期】 9～12回目	課題制作③「Gメジャースケール・セカンダリードミナント」を使用した、作詞テーマ「春」の楽曲制作 作詞のポイントのチェック/メロディーの起点についての理解/Gメジャー・セカンダリードミナントのヴォイシング/完成楽曲の録音
【前期】 13～16回目	課題制作④「マイナースケール」を使用した、作詞テーマ「雨」の楽曲制作 作詞のポイントのチェック/メロディーの起点についての理解/マイナースケールのヴォイシング/完成楽曲の録音
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	課題制作⑤「モーダルインターチェンジ」を使用して、作詞テーマ「夏の思い出」で楽曲制作 作詞のポイントのチェック/メロディーの起点についての理解/モーダルインターチェンジのヴォイシング/完成楽曲の録音
【後期】 24～27回目	転調について 短3度上・短3度下・全音上・半音上・下属調・属調 それぞれへの転調の仕方について理解を深める
【後期】 28～31回目	課題制作⑥「短3度上下への転調」を用いた、作詞テーマ「クリスマスソング」の楽曲制作 作詞のポイントのチェック/メロディーの起点についての理解/短3度上下への転調のヴォイシング/完成楽曲の録音
【後期】 32～35回目	課題制作⑦ ここまでの知識を用いた自由テーマの楽曲制作/完成楽曲の録音
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	1年次よりも高度な理論を身につけて、より完成度の高い作品を作れるように取り組みましょう。 また、各課題制作で取り組んだ楽曲は提出してもらい、評価の対象となります。 きちんとメ切を意識した作品制作が出来るように、積極的に授業に取り組んでください。
使用教科書	使用プリントを まとめた冊子を 1回目の授業で配布

授業科目名	分野別基礎実技		授業形態 / 必選	演習 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	2001年に、「溺れたエビの検死報告書」というバンドを結成。「Fuji Rock Fes」やRising Sun Rock Fes」などに多数出演。メンバー全員が巧なエビの仮面を装着し、独特のライブパフォーマンスを展開する演劇的な演出や、バンドのプロモーション活動など、バンド全体を見渡すプロデューサー的な業務をこなす。また、テレビ番組やCM、映画に楽曲提供するなど、作曲家としても精力的に活動中。				
<b>授業概要</b>					
音楽活動に必要なライブ・音源制作・プロモーション・マーケティングについての知識を学んでいく授業となります。ここで学ぶ知識や技術は、音楽活動のみでなく、いろいろな方面で役立っていくものとなります。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の音楽活動を自分でマネジメントできる知識とスキルを身につけることが出来ます。</li> <li>自身の音楽活動をデザインし、どのような活動を行っていくかをプランニングすることが出来ます。</li> <li>プロモーションに必要な、デザインやHP運営、MV制作などを、ある程度自身で行うことができるようになります。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	セルフマネジメントとは/音楽活動を始めるためのプロフィール作成(自己PR作成・写真撮影とデータ化)【プロフィールの提出】
【前期】 5～8回目	音楽で収入を得る方法/音楽活動のプロモーション/ロゴ制作【ロゴの提出】
【前期】 9～12回目	ライブの実践についてのノウハウ/自主企画イベントのための準備/企画書の書き方とイベントプランニング【企画書の提出】
【前期】 13～16回目	イベントに必要な書類作成/フライヤー制作(フォトショップを使ったデザイン)/印刷用データの作成方法【フライヤーデータの提出】
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	音源を売る方法/音源制作プランニング/レコーディングスタジオ調査/企画書と収支プランの作成【企画書の提出】
【後期】 24～27回目	CDジャケットデザイン/イラストレーターとフォトショップを使った総合的なデザイン/印刷用データの作成【ジャケットデータの提出】
【後期】 28～31回目	HP作成 素材集め/プロモーションを意識したデザイン/掲載する情報の見せ方/HPのアップ【HP URLの提出】
【後期】 32～35回目	プロモーションのためのMV作成/内容と絵コンテの作成/撮影～編集/Youtubeへのアップ【Youtube URLの提出】
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	自立した音楽活動を行うためのノウハウが詰め込まれた授業になります。 授業内での提出物や平常点も評価の対象になりますので、しっかりと授業に参加することを心がけてください。
使用教科書	使用プリントを まとめた冊子を 1回目の授業で配布

授業科目名	分野別上級実技		授業形態 / 必選	演習 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	実務経歴:12年 作曲・編曲からレコーディングまでマルチにこなすサウンドクリエイター。 作・編曲家としてはユニバーサルスタジオジャパンのショー音楽制作など、日本各地のテーマパークやイベントの楽曲制作に携わる。 レコーディングエンジニアとしても、テレビCMをはじめとして、多くの楽曲の録音やミックスを行っている。				
<b>授業概要</b>					
セルフレコーディングができるようになるための授業です。 学内のスタジオを使用しますが、自身で用意できる機材を使い、リハーサルスタジオや自宅で録音ができるようになるためのノウハウを学びます。					
<b>到達目標</b>					
・録音のセッティング等において必要なスキルを身につけ、機材の役割や使用方法を学び、自ら音を録音することができるようになります。 ・レコーディング作業の流れを理解し、各楽器の録音作業を正しく行えるようになる。 ・基礎知識とスキルを身につけることで、自身の音楽制作に役立てることが出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	レコーディング機材の使い方/録音のセッティングと信号の流れを理解/モニターシステムのセットアップ
【前期】 5～8回目	DAW(Digital Work Station)の使い方/基本的なセッティング/DAWのオペレート方法
【前期】 9～12回目	ヴォーカル録音 ヴォーカル録音セッティング/モニターバランス/コミュニケーション
【前期】 13～16回目	ドラム録音のセッティング/ドラムのセッティングとチューニング/各パーツのマイキング/レベルの取り方
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	ドラム・ベースの録音 D.Iの使い方/ドラム・ベースの録音セッティング/モニターバランス/レベルの取り方
【後期】 24～27回目	ギターとキーボードの録音 ギター・キーボードの録音セッティング/ダビング作業の進め方/モニターバランス/レベルの取り方
【後期】 28～31回目	ヴォーカルダビング ヴォーカル録音のセッティング/ヴォーカルディレクション/ヴォーカル編集とピッチあわせ
【後期】 32～35回目	ミックスダウン 各トラックのトリートメント/バランス調整/カクエフェクターの使い方/レベル調整
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	比較的速いスピードで進行する授業となります。 1回休むと理解できないポイントも出てくるので、休まずに参加することを心がけてください。 ミキサーなどの機材の使い方というよりも、録音に必要なベーシックなセッティングや録音方法の習得に重点を置いています。
使用教科書	使用プリントを まとめた冊子を 1回目の授業で配布

授業科目名	劇団実習		授業形態 / 必選	演習 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	株式会社TENPACHIで劇団天八の座長として多くの舞台出演、演出を手がける。また若手劇団員の育成も行っている。実務経歴12年				
<b>授業概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台演技についての基礎の理解</li> <li>集団での行動やコミュニケーション力の向上を目指す</li> </ul>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通してアルファベット発声を行う</li> <li>他の芸術表現(楽曲、ダンス)に繋げていく事が出来る</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	自己紹介 演劇ワーク アルファベット発声 / 空間把握と感情表現 / 発声・滑舌の技術向上 / 台本を用いた一人演技1
【前期】 5～8回目	舞台上での表現方法 / キャラクター作りを学ぶ / 台本を用いた一人演技2 / 表現方法とキャラクター作り
【前期】 9～12回目	共演者との距離感 / 人数を増やした共演者との距離感 / 台本を用いた二人演技1～2
【前期】 13～16回目	台本を用いた三人演技1～2 / 長尺の台本1 / 配役を決めた演技練習 / テスト対策
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期総復習
【後期】 20～23回目	台本を用いた演技1 / キャスティング・本読み / 立ち稽古 / キャスティングを変えた練習
【後期】 24～27回目	台本を用いた演技2 / 本読み / 立ち稽古 / 発表
【後期】 28～31回目	台本を用いた演技3 / キャスティング / 配役を変えた練習 / 立ち稽古
【後期】 32～35回目	台本を用いた演技4 / キャスティング・本読み / 立ち稽古 / 発表
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	舞台では1人で芝居をする時間もあれば複数で掛け合いをする時間もあり、演技方法が人数によって変わる感覚をしっかりと学んでほしい。距離感、感情を踏まえ、より多くの表現力を身につけてください。
使用教科書	

授業科目名	スタッフ技術実習		授業形態 / 必選	演習 選択	
			年次	2年次 ※半期ごとの選択科目	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	実務経験33年 株式会社TOP GEAR代表取締役。 関西を中心にライブハウス等での経験を活かし、Anthony Jackson、Victor Wooten、長瀬剛等のツアーに参加。 数々の夏フェスやRADIO CRAZY等にもスタッフ参加。				
<b>授業概要</b>					
基本的にライブハウスやスタジオではたけるようになるための技術を身につけるための授業です。 楽器のセッティングからPA機材のセッティング方法、ミキサーの使い方からステージ転換など、実践的な内容になっています。					
<b>到達目標</b>					
・PAの基本的技術や各機材の役割・作業手順を習得していくため、ライブハウスやスタジオで働くための技術が身に付きます。 ・ミュージシャン・スタッフ、それぞれの立場を理解することで、現場においてコミュニケーションを意識した、円滑な作業を行えるようになります。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ホール機材の解説/ケーブルの巻き方/スタンドの立て方/マイクの種類と名称/回線表の読み方/バンドセットの仕込み
【前期】 5～8回目	モニタースピーカの解説/PAミキサーの使い方/ミキサーのレベルの取り方/PreとPostの解説/アウトとインプットチェックの方法
【前期】 9～12回目	PAミキサーの仕込み方/インプットとアウトプットのパッチ/プロセッサとバイアンプ方式の解説/エフェクターの接続
【前期】 13～16回目	ステージ及びミキサー周りのバンドセットの仕込み実践/GEQの使い方/スピーカーチューニングのやり方
【前期】 17～19回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 20～23回目	PAミキサーの発展した使用方法/MATRIX・GROUPの解説とパッチの方法
【後期】 24～27回目	ステージサイドの仕込みの応用/各楽器へのマイキングの解説/モニターミキサーの使用方法和アウトのチェック
【後期】 28～31回目	モニター分岐した場合のバンドセット仕込み/ハウスとモニターの連携/モニターミキサーを含めたインプットとアウトプットのチェック
【後期】 32～35回目	バンドセットの転換シミュレーション/回線チェックとモニタープランニング/各スピーカーチューニング
【後期】 36～37回目	【後期試験】～後期総復習
評価方法	実技試験(早口言葉、アクセント練習一覧、授業内で使用した原稿より)、試験内容以外にも出席率、授業態度などの平常点も加える。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格)
学生へのメッセージ	ステージや音響スタッフとしての基礎的な知識と技術を習得することができます。 また、チームとしての動きやコミュニケーションなど、実際の現場で重要になってくる要素も身につけることができます。 基礎から学んで、就職などに活用してください。
使用教科書	使用プリントを まとめた冊子を 1回目の授業で配布